

2019 年度

文京学院大学人間学部
FD 委員会報告書（概要）

人間学部 FD 委員会作成

2019 年度 人間学部 FD 委員会 報告書

あいさつ	p. 1
I 今年度の活動目的	p. 1
II 活動経過と内容	p. 2
III 今年度の FD 活動を振り返って	p. 4
IV 議事録 委員会（第 1 回～第 8 回 臨時 2 回）	p. 5
V 委員氏名	p. 17

あいさつ（木村浩則 学部長）

今年度のFD活動は、前期に「適正な成績評価のために」、後期に「まちづくり研究センター(まちラボ)の社会貢献・地域連携活動の紹介と課題」というテーマで研修会を実施しました。前期研修会では、成績評価に関わる学部長報告の後、学科ごとのグループに分かれ、適正な成績評価のための工夫や課題について討議しました。教育が、教える者と教わる者の相互行為の再帰的なプロセスである以上、対象(教わる者)の真に客観的な評価は困難です。「絶対評価」と「相対評価」、「厳しい評価」と「甘い評価」、「客観性」と「主観性」、それら対極をゆらぎながら私たちは評価せざるを得ません。成績評価の適切性は、教員にとって永遠のテーマです。

後期研修会では、コミュニケーション社会学科の2名の教員に、まちラボふじみ野、まちラボ本郷の活動について報告いただき、地域連携・社会貢献活動の教育的意義とその課題、学科間連携のアイデア等について討議しました。人間学部は、これまでも地域連携・社会貢献に積極的に取り組んできました。しかし、その活動が、大学全体のミッションとして十分に位置づけられ、評価されてきたかと言えば、必ずしもそうではないように思います。「まちラボ」の創設と活動を契機に、地域連携・社会貢献活動があらためて本学の教育活動の核として位置づけられることを期待したいと思います。

最後になりましたが、FD委員の皆様、この1年たいへんお世話になりました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

I. 今年度の活動目的

今年度のFD活動の目的には、大きく3つの柱がありました。

1つ目の柱は、適正な成績評価を行うための工夫と課題を検討すること、2つ目の柱は社会貢献・地域連携活動の課題について検討すること、そして3つめの柱は学生代表者が参画して授業改善を検討することです。適正な成績評価の検討については前期FD研修会で、社会貢献・地域連携活動については「まちづくり研究センター(まちラボ)」の事例を踏まえて後期FD研修会で、いずれも学部教員が全員で議論いたしました。そして学生代表者が参画する授業改善については夏期休暇を活用して2回の臨時FD委員会を開催し、学生会本部役員とFD委員とで議論を深めました。FD活動の成果につきましては、この報告書をお読みいただければ、幸いです。

(金子智栄子 FD委員長)

II. 活動経過と内容

実施日	FD 委員会（主な議題と内容）	研修会
<前期>		
4/4（木）	第1回 ・今年度のFD委員会と学部FD研修について ・今年度の取り組みについて ・学部FD研修会について ・平成30年度人間学部FD委員会報告書ならびに概要書の最終確認	
5/8（水）	第2回 ・今年度の取り組みについて ・学部FD研修会について	
6/5（水）	第3回 ・前期の学部FD研修会について	
7/3（水）	第4回 ・前期の学部FD研修会について（確認） ・私立大学改革総合支援事業「タイプ1-⑱ 授業改革を図る制度的取組」の実施について	
7/24（水）	臨時 ・前期の学部FD研修会について ・学生代表者が参画する授業改善について	
8/7（水）		学部前期FD研修会
<後期>		
9/25（水）	臨時 ・昨年度の授業評価について ・参加学生の意見 ・学生自身の意見を踏まえての教員側のレスポンス	

10/2 (水)	第5回 <ul style="list-style-type: none"> ・学部の前期 FD 研修会の評価と反省 ・後期 FD 活動の方向性の確認 ・学生代表者が参画する授業改善 ・全学 FD・SD 研修会のテーマ案 	
11/6 (水)	第6回 <ul style="list-style-type: none"> ・後期 FD 活動の方向性の確認研修会のテーマについて ・全学 FD・SD 委員会と内部質保証委員会の合同会議 (11/06) について ・2019 年度 FD 委員会報告書(学内用)構成(案) 	
12/4 (水)	第7回 <ul style="list-style-type: none"> ・後期 FD 研修会について ・全学 FD・SD 委員会と内部質保証委員会の合同会議(11/06)の報告 ・学生代表者が参画する授業改善(学生会との合同会議：9/25)について ・2019 年度 FD 委員会報告書 (学内用) 構成 →公開用 	
2020 年		
1/31 (水)		学部後期 FD 研修会
3/4 (水)	第8回 <ul style="list-style-type: none"> ・学部後期 FD 研修会の反省について ・FD 委員会報告書の原案について ・今年度の活動の反省と評価について ・次年度の FD 活動の方向性について 	
3/17 (火)		全学 FD・SD 研修会 (新型コロナウイルス感染対策のため延期)

Ⅲ. 今年度のFD活動を振り返って

FD委員長 金子智栄子

今年度は、①適正な成績評価を行うための工夫と課題を検討すること、②社会貢献・地域連携活動の課題について検討すること、③学生代表者が参画して授業改善を検討すること、を目的にFD活動を展開した。

前期FD研修会では「適正な成績評価のために」というテーマで、成績評価に関わる学部長報告の後、学科ごとにグループに分かれて、適正な成績評価のための工夫や課題について討議した。評価方法の多様性、評価観点・基準、評価の工夫など、教員として直面せざるを得ない課題を学部教員全員で共有し情報交換できたことは大変有意義だったと考える。アンケート結果は、「①本日の学科別討議は有意義でしたか？」は『a. はい』が84%、「②本日の報告は参考になりましたか」は『a. はい』が81%、「③研修内容について」は『b. 適当』が89%と好評であったことも、研修の有効性を裏付けていると考える。ただし、研修会への要望として、グループ編成を学科別にするとメンバーが固定化しやすく、他学科の教員とも話し合いたいという意見があった。そこで、後期の研修会では学科を超えてグループを編成することにした。

後期FD研修会では、コミュニケーション社会学科の古市太郎先生・中山智晴先生が、各々、まちラボ本郷・まちラボふじみ野の活動について紹介して下さり、実践例を踏まえながら地域連携・社会貢献活動の教育的意義とその課題、学科間連携等について討議した。ボランティア的活動にいかに学生を参加させるかなどについて、学科を超えて多くのアイデアが生まれ、教員間の学びに繋がっていったと考える。特に、「まちラボ」は学部内の活動であったにもかかわらず、詳細を知らない教員もおり、教員相互の理解が深まって親近感が高まったようである。アンケート結果は、「①本日のグループ別討議は有意義でしたか？」は『a. はい』が97%、「②本日の報告は参考になりましたか」は『a. はい』が97%であった。このような高評価を得たのは、身近な活動について、教員が共通する悩みを話し合えたことが起因していると考えられる。話題提供をしてくださった古市先生・中山先生に深く感謝する。

学生代表者が参画する授業改善については、夏期休暇を活用し2回の臨時委員会を開催して検討した。まずFD委員の方で「学生によるアンケート」の前年度(2018年度)分を前期と後期に分けて、授業形態(講義・演習・実習)別、受講者数(30人未満・30~99人・100人以上)別に分析した。集計結果をもとに、ふじみ野キャンパス学生会本部役員とFD委員とで討議した。アンケート結果の活用や重要性、自由記述欄の記載の仕方などについて意見交換がなされた。学生と教員という「学ぶ側(授業を受ける側)」と「教える側(授業をする側)」という一見対立的な立場ではあったが、お互いの苦勞が率直に話し合われて、一種の「思いやり」が生まれたように感じた。今後も継続していきたいと思う。

FD活動における成果は、FD委員の絶大な協力によって可能になっている。FD委員、さらに委員の一人として、活動の方向を導いてくださった学部長 木村浩則先生に心より感謝している。

IV. FD 委員会議事録

第 1 回 FD 委員会

日時 : 2019 年 4 月 4 日 (木) 14 時 00 分～14 時 50 分

場所 : 西館 3 階 講師控室

出席者 : 木村浩則、金子智栄子、西尾博行、文野洋、登丸あすか、安藤美樹、
須藤佐知子、田嶋英行

< 議題 >

1. 今年度の FD 委員会と学部 FD 研修について

1) 委員会の日程

前期 : 4 月 4 日 (本日)、5 月 8 日 昼休み、6 月 5 日、7 月 3 日

後期 : 10 月 2 日、11 月 6 日、12 月 4 日、1 月 8 日 (3 月 4 日)

2) FD 研修の日程

前期 : 7 月 31 日 (M2 修士論文中間発表後)

後期 : 1 月 31 日

2. 今年度の取り組みについて

(案 1)

タイプ I 「教育の質的転換」の関連に関連する取り組みを実施する場合、そのなかの「成績評価の FD」のアセスメント・ポリシーにもとづいた成績評価の在り方について、論じることのできる外部講師をお呼びする。

(案 2)

多様な学生、とりわけ性的マイノリティの学生への対応はどのようにすればよいのか、本学のみならず、さまざま教育現場で試行錯誤をしている状況である。どのような対応であれば、はたして合理的な配慮をおこなっていると考えられるのか。授業や学校生活全般について、改めて検討をおこなっていくことが求められる。このような点について、先進的な取り組みをおこなっている学校の関係者等をお呼びしてもよいのではないかと。

3. 学部 FD 研修会

前期学部 FD 研修では、先の 2 の (案 1) や (案 2) を踏まえ、今後外部講師の選定をおこなっていく。さらに他の案があれば、次回の会議以降、各自提案をおこなっていく。

4. 平成 30 年度人間学部 FD 委員会報告書ならびに概要書の最終確認

平成 30 (2018) 年度の「報告書」ならびに「概要書」の最終チェックをおこなった。

以上

「次回の FD 委員会 : 5 月 8 日 (水) 昼休み 西館講師控室にて開催予定」

第2回 FD委員会

日時 : 2019年5月8日(水) 12時30分～12時55分

場所 : 西館3階 講師控室

出席者 : 木村浩則、金子智栄子、西尾博行、文野洋、田嶋英行、登丸あすか、
安藤美樹、須藤佐知子

<議題>

1. 今年度の取り組みについて

木村学部長より、外部講師として以下2名の先生方が推薦された。

①成績評価の厳格化をテーマに様々な大学でご講演をされている田中正弘先生(筑波大学)

②IRやGPAの評価についてご講演をされている半田智久先生(お茶の水女子大学)

登丸委員より、筑波大学の性的マイノリティの学生へのガイドラインについて報告がされた。筑波大学の取り組み等については、学生委員会：永久委員長へ登丸委員より報告することが確認された。

2. 学部FD研修会について

1) 外部講師の選定

今年度は①田中正弘先生にご依頼することが確認された。

講師へのご依頼は、木村学部長が担当して下さることになった。

2) 前期と後期の研修会の内容について

前期：成績評価について問題点を教員間で共有する

後期：外部講師による講演会

との提案がされ、講師の先生のご都合に応じて、次回改めて検討することとなった。

3) FD研修会日程の変更

前期：7月31日 → 8月7日(A0入試)を予定として調整する。

以上

「次回のFD委員会：6月5日(水) 14時50分～ 西館講師控室にて開催予定」

第3回 FD委員会

日時 : 2019年6月5日(水) 14時50分～15時50分

場所 : 西館3階 講師控室

出席者 : 木村浩則、西尾博行、文野洋、登丸あすか、
安藤美樹、須藤佐知子、金子智栄子

欠席者 : 田嶋英行(公務)

<議題>

1. 前期の学部FD研修会(8月7日)について

1) 外部講師の検討の結果

田中正弘先生とは連絡がとれなかったことが報告された。そこで、研修会の冒頭で木村学部長が成績評価に関する要点を説明し、学科ごとに検討するという内容が提案され、承認された。

2) 研修会の内容について

各学科のディプロマ・ポリシー等を参照しながら、成績評価に関する問題・改善点、今後の課題を検討する。次回の会議で、研修会で話し合う内容についてより詳細に検討することが確認された。

3) 前期の研修会の構成

以下の内容で研修を行うことが確認された。

- ・挨拶(5分)
- ・学部長の講義(30分)
- ・学科の討議(40分) : コミ社のみ1グループ、他は学科ごとに2グループを編成
- ・まとめ(15分)

以上

「次回のFD委員会 : 7月3日(水) 14時50分～ 西館講師控室にて開催予定」

第4回 FD委員会

日時 : 2019年7月3日(水) 14時50分～15時50分

場所 : 西館3階 講師控室

出席者 : 金子智栄子、木村浩則、西尾博行、文野洋、田嶋英行、
安藤美樹、須藤佐知子

欠席者 : 登丸あすか(公務)

<議題>

1. 前期の学部FD研修会(8月7日)について

1) 研修会の内容について

木村浩則学部長より、改革総合支援事業における課題及び求められていることについて報告がされた。その検討の結果、テーマ「適切な成績評価を考える」木村浩則学部長のご講演後、学科別討議では、「アセスメント・ポリシーをどう作るか」について討議することが確認された。

2) 研修会の進行・アンケート・準備

進行については、あいさつ・ご講演(30分):木村浩則学部長、学科別討議(40分)、討議の報告(各グループ2分×7グループ14分)と確認された。

アンケート内容及び当日の準備について、確認がされた。

2. 学生代表者が参画する授業改善について

1) 学生の授業評価の分析・検討について

以下4点について、検討し確認された。

①授業を講義・演習・実習に分類し、項目1～6について比較する。

②受講者数30人未満・30～99人・100人以上に分類し、満足度の関係を分析する。

③①・②は、学部でまとめたデータとする。

④①②の分析結果をもとに、7月24日に臨時FD委員会を開催し、検討する。

2) 学生代表について

ふじみ野キャンパス学生会の会長・副会長を学生の代表とすることが確認された。

3) 学生が参画するFDについて

魅力ある授業について、学生代表者と教員の意見交換の場を9月25日昼休みに設けることが提案された。

以上

*臨時FD委員会 7月24日12:30～西館講師控え室にて開催予定

「次回定例のFD委員会:10月2日(水)14時50分～西館講師控え室にて開催予定」

臨時 FD 委員会

日時 : 2019 年 7 月 24 日 (水) 12 時 30 分～13 時

場所 : 西館 3 階 講師控室

出席者 : 木村浩則、金子智栄子、須藤佐知子、西尾博行、文野洋、登丸あすか
田嶋英行、安藤美樹

< 議題 >

1. 前期の学部 FD 研修会 (8 月 7 日) について

1) テーマ「適正な成績評価のために」

8 月 7 日 (水) に行われる学部 FD 研修会のテーマと当日の配布資料について確認がなされた。研修会の前日に、開始時間の確認メール送信を教務グループへ依頼することとなった。討議の視点については木村浩則学部長からご提案いただいた下記 3 点とするが、③については時間を観ながら進めていくことを確認した。

①信頼できる評価に向けた課題や困難

②信頼できる評価のための工夫

③改善に向けて共同すべきことは何か

2) 研修会の進行・アンケート・準備

研修会の進行・アンケートについては、前回の会議にて検討された内容から特に変更ないことが確認された。

委員長より、当日の準備に関する助手の先生方との打ち合わせ状況について報告がなされた。

2. 学生代表者が参画する授業改善について

1) 2018 年度の授業アンケートについての分析・検討

(1) 授業形態により講義・演習・実習に分類した結果について

(2) 受講者数 30 人未満・30～99 人・100 人以上に分類した結果について

2018 年度授業アンケート集計結果 (作成: 文野委員) について、分析・検討を行った。

- ・予測していたとおり、受講者が多ければ多いほど評価は低い。
- ・講義・演習・実習の授業形態の中では、演習の評価が最も高く、講義の評価が低い。
- ・前期と後期で大きな差はみられない。
- ・今回は資格系の科目とそれ以外の科目で集計していないが、資格系の科目とそれ以外の科目で差が生じることが推測される。

- ・100名以上の授業は17科目だけなので、集計する際の履修者数の区切りを再度検討していくことも求められるのではないかと。
- ・集計結果の「受講者数」を「回答者数」へ修正する（履修者数での集計ではない）。

今後の課題として、受講者が多い講義科目ほど、学生自身が目標達成に努めることができるような授業の工夫が求められることが挙げられた。

2) 学生代表者との授業アンケート結果の検討会について

ふじみ野キャンパス学生会本部役員と下記日時・場所にて授業アンケート結果の検討会を開催することを確認した。集計結果は事前に配布する。

日時：9月25日（水）昼休み（12時20分～）

場所：東館小会議室

以上

「次回定例のFD委員会：10月2日（水）14時50分～ 西館講師控室にて開催予定」

臨時 FD 委員会

日時：2019年9月25日（水）12時30分～13時00分

場所：東館小会議室

出席者：学生会（委員長 他4名）、

金子智栄子、須藤佐知子、西尾博行、文野洋、安藤美樹、田嶋英行

欠席者：木村浩則（公務）、登丸あすか

1. 昨年度の授業評価について（金子委員長）

「学生によるアンケート」「2018年度前期・後期集計結果」について、金子委員長より説明があった。結果については、それぞれの項目について、平均値と標準偏差が記載されている旨、説明された。

2. 参加学生の意見

今回のFD参加学生から、以下の意見が出された。

- ・全体的にみるととても高い数字ではないか。ただ現実とは違うところも、周囲の学生の実際的评价との違いも感じる。
- ・今回は記載されていないが、「自由記述欄」をより有効に活用していくことも求められるのではないか。
- ・アンケートの信憑性自体に疑問を感じることもある。アンケート自体の検討が求められるかもしれない。
- ・講師の授業がうまい人とそうでない人がいるので、平均値では「実像」は分からない。（全体の平均値では、個々の教員の力量がわからない。）
- ・授業の終了が遅れてしまいアンケート記述自体の時間が短くなってしまった場合、学生側もあまりじっくりと評価していない可能性がある。
- ・学生側からみた場合、アンケートを実施することの重要性が理解できていない場合がある。アンケート結果の集計を学生が見ることができることを、より広範囲にアナウンスしてほしい。
- ・後期のほうが前期よりも高いように感じるので、前期の授業の質をどのように上げるのか考えたほうがよいのではないか。
- ・「自由記述欄」の分析によって、授業の実際を浮き彫りにすることができると思う。

3. 学生自身の意見を踏まえての教員側のレスポンス

- ・分析の方法としてはいろいろあると思う。またアンケート実施時にいた学生が対象にな

るので、平均値は高くなる傾向があるだろう。「自由記述欄」については、授業のどこが良かったのかはあまり書かれない。学生には、その点について認識してほしい。またアンケートの「重要性」を学生自身に理解してもらえるように、教員側も努力する必要があると思う。

- ・国家資格科目については、分量が多いので、授業の進行自体に負荷がかかっているという現状がある。「スライドを変えるのが早い」といった、さまざまな意見がでてくる。とくに国家試験を受験しない学生がクラスに混在している場合には、とくにその傾向が強い。
- ・アンケートの「自由記述欄」での「改善点」と「良いと思った点」の順序を変えると、「良いと思った点」について、より書いてもらえるようになるのではないか。
- ・授業期間の冒頭で趣旨説明をおこなっているときに欠席していると、趣旨そのものが伝わっておらず、欠席した学生のなかにはその際に説明をおこなった事項について、「改善点」に書いてくる場合もある。
- ・(教員側の学生への質問) クラスサイズに応じて、アンケートに答えづらいことはあるか。
→ (学生側の回答) 履修人数が多い場合、モチベーションが低い学生がいると授業の質自体が下がる傾向がある。それは必ずしも教員側のマターではないので、書きづらいということはある。
- ・「自由記述欄」には、本音が書かれていると思う。ただ授業内容的に、どうしても規定の内容がはまりきらない場合がある。(教員側の学生への質問) 学生自身の受講態度等の評価については、信じてよいのか。→ (学生側の回答) 学生自身については、比較的「等身大」が表現されているのではないか。
- ・少人数のクラスのほうが、学生自身の参加度が高い。演習等で、アクティブ・ラーニングを取り入れると、評価も高まる傾向にある。
- ・大教室でも、アクティブ・ラーニングを取り入れるとよいのではないか。ただ学生のなかには、そのような作業自体が不得手なひともあるので、バランスをとるのが難しい。

4. まとめ (金子委員長)

今回の学生の意見を踏まえ、今後「アンケート」がより効果的に授業改善に活用されていくように、教員側としても検討を重ねていきたい。今回は貴重なご意見をいただくことができました。ありがとうございました。

以上

第5回 FD委員会

日時 : 2019年10月2日(水) 14時50分～15時50分

場所 : 西館3階 講師控室

出席者 : 木村浩則、西尾博行、文野洋、田嶋英行、登丸あすか、
安藤美樹、須藤佐知子、金子智栄子

<議題>

1. 臨時FD委員会(7月24日、9月25日)の議事録確認

- ・確認し、承認された。

2. 前期の学部FD研修会(8月7日)の評価と反省

資料: 議事録・アンケート結果

- ・確認し、承認された。

3. 後期FD活動の方向性の確認

後期FD委員会(2020年1月31日)の内容について以下のとおり承認された。

- ・テーマ: 社会貢献・地域連携: まちラボの活動を中心に
- ・内容: まちラボの活動を紹介してもらい、それに伴う学生への配慮を全体で検討する。
- ・学科の枠を超えてグループディスカッションをする。

4. 学生代表者が参画する授業改善(学生会との合同会議: 9月25日)

資料: 議事録

- ・来年度以降も学生の意見を聞く場として継続する方向性で検討された。

5. 全学FD・SD研修会のテーマ案(資料: 表1)

研修会のテーマとして以下の2案が提示され、承認された。

- 1案 社会貢献・地域連携: 教職員がどう関わるか
- 2案 入試改革について

以上

「次回のFD委員会: 11月6日(水) 14時50分～ 西館講師控室にて開催予定」

第6回 FD委員会

日時 : 2019年11月6日(水) 14時50分～15時50分

場所 : 西館3階 講師控室

出席者 : 木村浩則、金子智栄子、須藤佐知子、登丸あすか、西尾博行、文野洋

欠席者 : 田嶋英行(公務)、安藤美樹(公務)

<議題>

1. 後期FD活動の方向性の確認

話題提供ご担当の中山学科長からご提案いただいた以下のテーマおよび討論内容を検討し、基本的にこれに沿って進めることとした。

<テーマ>

まちづくり研究センター(まちラボ)の社会貢献・地域連携活動の紹介と課題(30分)

<グループ討論内容>

- ・学内だけでは学べない教育を地域連携や社会貢献活動で学ばせることの意義
- ・学科間連携により実施したい活動(どこを何をしたいのか)
- ・ボランティア活動(委員会活動を含む)に参加する学生をどのように増やしていくのか
- ・学生のキャンパス移動に伴う負担や活動への影響とその対応

話題提供には、まちラボ本郷の活動を含めて報告いただけるよう、金子委員長より中山学科長に依頼する。討論は、上記のうち2点について意見交換を行うこととした。

討論は4学科教員の混成グループで行う。コミュニケーション社会学科の参加教員数とFD委員の人数から6グループとし、FD委員およびまちラボ運営委員は各グループに1名分かれて参加することとした。

2. 全学FD・SD委員会と内部質保証委員会の合同会議(11/06)について

金子委員長より、全学FD・SD研修会(2020年3月)のテーマ(入試改革・高大連携)について検討予定であることが報告された。

3. 2019年度FD委員会報告書(学内用)構成(案)

議案に掲載の活動報告書の構成(案)(議案参照)を検討し、この構成で進めることを確認した(後期の研修会の「学科からの報告」は討論グループからの報告に修正する)。

以上

「次回のFD委員会:12月4日(水)14時50分～ W311にて開催予定」

第7回 FD委員会

日時 : 2019年12月4日(水) 14時50分～15時10分

場所 : 西館 W311

出席者 : 木村浩則、金子智栄子、西尾博行、文野洋、田嶋英行、安藤美樹、
登丸あすか、須藤佐知子

<議題>

1. 後期FD研修会について

<テーマ>

まちづくり研究センター(まちラボ)の社会貢献・地域連携活動の紹介と課題(30分)

講師: コミュニケーション学科 中山智晴 学科長 古市太郎 センター長

- ・中山学科長のご提案で古市センター長にもお話していただくこととなった。

<アンケート・進行表・準備>

- ・アンケートと進行表の確認がなされた。
- ・準備については、助手の先生方で調整中。
- ・研修会の時間については、14:50～16:20の予定。

2. 全学FD・SD委員会と内部質保証委員会の合同会議(11/06)の報告

金子委員長より、全学FD・SD研修会(2020年3月)のテーマ(入試改革・高大連携)の内容について引き続き検討中であることが報告された。

3. 学生代表者が参画する授業改善(学生会との合同会議: 9月25日)の事務局への報告

金子委員長より、大島マネージャーに議事録を提出したことが報告された。

4. 2019年度FD委員会報告書(学内用)構成→公開用

- ・報告書の担当者の確認がなされた。
- ・原稿締切りは、2月16日(日)まで。金子委員長宛、メール添付のこと。

以上

「次回のFD委員会: 1月8日(水) 14時50分～15時50分 西館講師控室にて開催予定」
(次々のFD委員会: 3月4日(水) 時間未定)

第8回 FD委員会

日 時 : 2020年3月4日(水) 13時00分～14時00分
場 所 : コロナウィルス感染防止のためメール会議
出席者 : 木村浩則、金子智栄子、西尾博行、文野洋、須藤佐知子、
登丸あすか、田嶋英行、安藤美樹

<議題>

1. 学部後期FD研修会の反省について

- ・学生参加による地域連携活動については、論点を絞る上で他学科の教員との意見交換が有意義だった。
- ・日々の授業から地域での活動まで視野を広げ、学生たちが意欲的に学べる場づくりについて考える機会となった。
- ・まちラボの活動を知る機会となった。学生のボランティア活動への参加が少ないことについて先生方との意見交換は、学生指導にも活かせる内容であり、有意義だった。

2. FD委員会報告書(学内用・公開用)の原案について

メール審議の結果、内容は承認され、写真の入れ込みやレイアウトについては文野委員が担当することとなった

3. 今年度の活動の反省と評価、ならびに、次年度のFD活動の方向性について

- ・FD研修会で教員が学んだことが、実際の教育現場にどう反映されているかを知る上でも、学生との検討会は大変意味のあるものと考えられ、今後も機会があれば実施したい。
- ・討論によって得た成果を形にする仕組みがないため、委員会のなかでそれらの案を検討し、関係各所につないでいくことも、今後の活動として考えられる。
- ・学部FDやFD委員会は、まさに本学における「組織開発」の場なのであろうし、今後さらに学部での人材の多様化が進んでいくと思うが、職場を一つの組織として機能させていくためにも、こういった場を継続的に維持していくことが求められると思う。
- ・今後のFD研修会も、教員一人ひとりがじっくり時間をかけて考えたいと思っけていても、個人で取り組むことの難しい「どうあるべきか」について話し合える場であってほしいと感じている。
- ・FD委員会の活動を通じて、授業運営や学生指導の在り方などよりよい教育について考える契機となった。FD委員会やFD活動で得られた知見を今後の学科運営や学生指導に活かせるようにしたい。

以上

V. 委員氏名

コミュニケーション社会学科 : 登丸あすか
児童発達学科 : 木村浩則、金子智栄子（委員長）、須藤佐知子
人間福祉学科 : 田嶋英行、安藤美樹
心理学科 : 西尾博行、文野洋